

第1回有識者懇談会での主な意見と対応(1/3)

分野等	指摘事項	ページ	対応の方向(凡例:赤字→追記・修正、黒字→変更なし)
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きで読んでいてワクワクするような面白い具体性のある計画</li> <li>・人口流出への歯止め、人口増加のための産業創成や雇用促進等に資する、10年先の明るい未来を具体化するための良い計画</li> <li>・右肩上がりの経済成長時代の頃の感覚から抜け切れていない市民意識もあるが、県や市町村職員の意識を変えてるため、少しショッキングな表現を使うべき</li> <li>・具体性を持たせるのは難しいかもしれないが、わかりやすさは必要</li> <li>・10年間の大きな変化へ対応するというものもあるが、そのような大きな変化をチャンスとして利用していくという視点も大事</li> </ul>		→課題、将来像、戦略目標、広域連携等について、 <b>分かりやすく具体的な記載を充実</b>
将来像	<p>「どこよりも、暮らしたい、学びたい、働きたい、住み続けたい」北陸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京をスタンダードと捉えるのではなく、北陸の強みである「産業と地域コミュニティが揃っていること」などを強調すべき</li> <li>・北陸圏のように子育て施策が充実していても出生率は下がっている現状から、出生率の下り曲線を緩やかにするくらいが現実的な目標</li> <li>・北陸としてどうしていくのか、少子化への歯止めを一番の課題として捉え記載すべき</li> <li>・10年後も住んでいる人が幸せと思うまちづくりを進めるべき</li> <li>・「(前半を短縮)～住み続けたい、死に甲斐のある北陸」としてはどうか</li> <li>・今後10年の方向性として、「ハードからハードへ」というものも入れてはどうか</li> <li>・日本のブータンと言われる北陸では、「日本一幸せな暮らしのあるまち」はどうか</li> <li>・「どこよりも、暮らせる、学べる、働くことのできる、住み続けることのできる」といった、自立的な展開イメージで記載すべき</li> <li>・農業、漁業等地域別に異なる地域活性化の方向について具体の記載が必要</li> <li>・工業や観光等地域で特色に違いがあるので、特色の違いを踏まえた活性化の方向を記載すべき</li> </ul>		<p>→将来像 I において北陸圏の暮らしの面での強みを個性として伝えられる目標像の記載を再検討</p> <p>どこよりも輝き、幸せな暮らしが実現できる 新北陸</p>
	<p>日本海・太平洋2面活用型国土形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道から九州まで広域をイメージする日本海国土軸という表現は北陸圏で取り上げるのには疑問</li> <li>・太平洋ではなく、首都圏や中部圏等との関係を具体的に記載すべき</li> <li>・太平洋日本海2面活用型国土はその通り</li> </ul>		→日本海国土軸の強化や太平洋側との連携強化による日本全体の持続的発展は、今後10年の北陸圏の発展にも重要な意味を持つことから、将来像 II は現案のままとする
戦略目標① (個性ある北陸圏の創成)	<p>暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会から脱却し歩道を整備・充実して人にやさしい道づくりを考えるべき</li> <li>・車いすで移動しやすくするためエレベーターの整備を推進</li> <li>・ケアサービス付高齢者住宅についてもう少し説明をしっかりとすべき</li> <li>・高齢者のコミュニティ拠点となるまちの駅を増やすべき</li> <li>・平均寿命が延びた日本で定年後の20年の余生の充実も大切</li> <li>・子どもを育てるのに、地域みんなで育てる意識づけも必要</li> <li>・首都圏居住の人からも住みやすいと思われるよう、雪の克服について強調記載すべき</li> <li>・現居住の住民の満足度は高いが、外からの移住者には決して満足度が高い訳ではなく、雪などの否定的な意見が多いことに留意</li> <li>・北陸新幹線を契機としてターン、Uターンを推進</li> </ul>		<p>→目標1(1)内において高齢者等にも暮らしやすい「ユニバーサル環境整備」を追加</p> <p>→目標1(1)において「地域コミュニティの維持、充実」を追加</p> <p>→目標1(5)においてUターン促進の観点から、圏域外からも魅力を感じられる「暮らしやすさのPRIによる」を追加</p>
	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や空き家が問題となる中で、居住エリアの化、人が住むエリアと働くエリア、自然あるエリアや農林水産業を育むエリアの棲み分けという50年先を見た考えも重要</li> <li>・福井～富山、能登半島もあり、細長い圏域であり、地理的にはコンパクト化は難しい</li> </ul>		→目標1(5)において北陸圏の地理的特徴を踏まえた都市圏のコンパクト化と都市と農山漁村共生を記載済み
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティを活かして、災害時の危機管理に活かす視点も必要</li> </ul>		→目標1(3)において「減災に資する地域コミュニティを活かす」ことを追記

第1回有識者懇談会委員の指摘要旨と対応案(2/3)

分野等	指摘事項	ページ	対応の方向(凡例:赤字→追記・修正、黒字→変更なし)	
戦略目標 ① (個性ある北陸圏の創成) 【続き】	環境・エネルギー			
		10	→目標1(4)において「エネルギー技術開発の推進」を追記	
		10	→目標1(4)において北極海航路のネガティブな側面として地球環境問題について言及	
	商業等中心活性化	10	→目標1(5)において「中心商店街の活性化」を追加	
	過疎対策	・金沢市や富山市の周辺にある世界シェアトップ企業のない能登半島等過疎地域では、食、自然、温泉等を活かした観光や水産業の産業振興が軸		
		・暮らしやすさ、都市的な暮らしの利便性を確保するためには、通信技術の強化、大都市圏と同じネットワーク環境の整備が重要		
		・過疎地域の買物難民対策にインターネット利用が考えられるが、その成立の可否は物流システムの広域化・効率化である	11	→目標1(5)において能登半島等過疎地域の暮らしやすさの充実等の観点から「セーフティネットのある安心とゆとり、高度情報通信環境の充実等による利便性や高等教育機会に恵まれた魅力のある暮らしやすい農山漁村の形成」と追記
		・能登半島にキャンパス・里山マイスターといった制度を持っている金沢大学のような高等教育機関を過疎地域に設けるようにする視点も重要		
		・出産のための医療環境も整っていない能登半島等過疎地域の市町村に関してはセーフティネットという視点からも提案すべき		
		11	→目標1(5)において外国人雇用の確保について言及	
インフラ	・20世紀多く開発してきた資源・施設等の維持・活用が重要			
	・どのインフラを今後長寿命化対策やリノベーションしていくのかについても言及すべき	11	→目標1(5)においてインフラマネジメントの「的確な優先順位等」について追加	
戦略目標 ② (競争力のある産業の育成)	ものづくり・製造業等		11	→目標2(1)において「活発なNPOの設立・活動等によるコミュニティビジネスの展開」を追加
		・事業の新陳代謝を促進、活性化させ、既存の中核産業で付加価値力を作ることが重要		
		・中国等の低コストの発想を超えて、ハイテク技術の融合、欧州の技術との融合といったことを増やすことが大切で、この際、素材の多用途開発等工業試験場等の活用も重要	11	→目標2(1)において製品・技術開発による「高付加価値化」を追加
		・価値観の高度化に伴う欧州の価値観との融合に向けて、北陸圏の伝統産業のハイテク化、グローバル化する必要がある		
		・伝統産業のブランド化が重要	11	→目標2(1)において「高い価値観と融合した伝統産業のブランド化・グローバル化」を追加
	人材育成	・伝統産業として金箔など、北陸固有の「伝統力」を強調して記載すべき		
		・人材育成に加え、地域として起業できる・しやすい環境を整備していくことが重要		
		・人材育成は地方が独自に取り組むべき		
	産業全般	・高等教育に関しては、ユニークな学術的な大学、個性のあるというところで打ち出すべき		
		・本社機能に加えマザー工場や研究開発部門・研修機能等の誘致についても言及すべき	12	→目標2(2)において「製造拠点・本社・研究開発・研修機能の誘致」を追加
・ロシアの東方シフト等動向も踏まえた環日本海側諸国との経済連携強化も見据えていくべき		12	→目標2(2)において「環日本海諸国等海外との経済連携」を追加	
・北陸圏の隠れた企業のアピールの仕方も重要		12	→目標2(2)において「優れた企業」を追加	
	・北陸新幹線の開通で石川県までが東京経済圏の影響をより強く受けるようになる。ビジネス環境への影響対応についても言及すべき	12	→目標2(2)において東京経済圏となることの影響対応を言及	

第1回有識者懇談会での主な意見と対応(3/3)

分野等	指摘事項	ページ	対応の方向(凡例:赤字→追記・修正、黒字→変更なし)	
戦略目標 ② (競争力のある産業の育成) 【続き】	農林水産業			
	・食のブランド化が重要	12	→目標2(3)において「食のブランド化と海外展開の推進」を追加	
	・食のブランド化では、港湾・空港を活用した食の輸出も重要			
	・能登半島等の森林についてグリーンエネルギー等新しい活用はできない言及すべき	12	→目標2(3)において「新たな木材需要の創出、木質バイオマスの利用促進」による林業振興を追加	
	・待ちの漁業だけでなく、近畿大学のような自ら育てる漁業の視点で付加価値をつけていくことなど水産業の記載を充実すべき	12	→目標2(3)において育てる漁業等を含めた水産業振興について言及	
戦略目標 ③ (日本海国土軸の強化と太平洋側との連携強化)	交通・物流	・欧州と東アジアをつなぐ複数の物流ルート間での競争が活発化していることを踏まえ、日本海側での物流の方向性を言及すべき		→目標3(1)において欧州等との物流環境の充実や空港の国際航路充実等国際旅客・物流の強化については記載済み
		・小松空港等では航空路線は限られるため、国際線等の充実が不可欠		
		・港湾整備は物流のみならずクルーズ就航等人流も考慮すべき		
		・港湾・空港に関しては、現状に加え今後将来に向けて海外とどう向き合っていくのかについても記載		
		・ハブとなる新幹線駅や空港等からの1時間圏等を調査し、整備計画の整備促進に関するデータを「見える化」	13	→目標3(1)において「港湾・空港・駅・IC等交通結節点の機能強化やアクセス機能の強化」を追加
		・空港や港湾までのアクセス強化が必要		
		・空港間、港湾－空港－駅等交通結節点間の主要アクセス路(主線)とそれを支える支線をどう構築し活用していくかが課題		
		・北陸新幹線を早く大阪まで伸ばすことで、リダンダンシーの確保等多様な機能が芽生えてくる、東海道新幹線と北陸新幹線の環状ルート化が必要	13	→目標3(2)において「北陸新幹線、東海道新幹線、リニア中央新幹線が環状で機能する、広域ネットワークの強化」と修正
		・北陸新幹線を大阪まで延伸し、時間距離感を近くするところから始めるべき		
		・首都圏や関西圏もあるが東海とのつながりも強いので、石川から名古屋に新幹線整備をといった夢のある大きな構想提案もあると良い		
・北陸新幹線等高速交通幹線の整備に伴って二次交通の整備もまた重要	13	→目標3(2)において「北陸新幹線、小松空港、能登空港、富山空港等高速交通ネットワークの充実に伴う圏域内交流を支える二次交通の充実」を追加		
・北陸新幹線開通と合わせて二次交通の充実を図り、圏域内の交流を促進することも記載すべき				
・中部縦貫道の整備等について、福井の人はもっと主張すべき		→目標3(2)において、高規格幹線道路等の交通機能の強化について記載済み		
戦略目標 ④ 交流(対流)人口の創出	観光	・日本の原風景が残る北陸圏の資源を活かして、癒しや健康、体験教育、雪等を活かした物語を構築していくことが必要		→目標4(1)において、伝統的な産業、自然・歴史に培われた暮らしの継承等の観点で記載済み
		・自然の景観や都市景観で日本一になるようなものを目指して能動的に景観を高めていくことを記載すべき		
		・日常の暮らしを見たい外国人観光客誘致のため、生活を観光に結びつけることが大切		
		・能登半島に残る田舎ツーリズムの対象となる原風景を残していくことも強調すべき		
		・面白い魅力を海外のメディアが勝手に探しにくる東京オリンピック・パラリンピックをショーケースと認識して北陸圏を売り込んでいくことが必要		→目標4(2)において、東京オリンピック・パラリンピックや北陸新幹線開業を契機とした具体的な国内外観光客誘致に向けたPR、ツアールート構築については記載済み
		・東京オリンピック・パラリンピックを契機として、おもてなし力を生かした産業を活かしたビジネスを形成しものづくりに加えていくべき		
		・北陸新幹線開通による首都圏観光客の増加による効果を活かすべき		
		・観光庁が目標とする2030年、4000万人という海外観光客の目標を踏まえ、ゴールデンルートに続くプラチナルートとして、日本海側のルートを形成していくべき		
		・北陸新幹線だけでなく、航空であれ、韓国からの旅客線であれ、様々な交通機関を使った観光ツアールートを企画提案すべき		
		・北陸圏としての観光戦略を具体的に記載すべき		
・どこからどれくらいの人を誘客するのか具体的な提案を入れていくべき	14	→目標4(2)において、国内外のターゲットとして「首都圏や欧米、アジアの新興国等」を追記		

## 第1回有識者懇談会での主な意見と対応(欠席者)

分野等	指摘事項	ページ	対応の方向(凡例:赤字→追記・修正、黒字→変更なし)
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地域に関わる様々なデータが、丁寧に収集されており、北陸圏広域地方において、戦略的な計画を構築するために十分な基礎データが集まったと評価できる</li> </ul>		—
戦略目標 ① 個性ある 北陸圏の 創成	防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都直下地震は首都機能の喪失を伴う国難災害に発展する危険性が高い。南海トラフ巨大地震は災害救助法が707市町村に発令されるスーパー広域災害となる危険性が想定されている。太平洋側に想定される事態が「国難(国全体を揺るがす事態)」であることを強調すべき</li> <li>日本海・太平洋2面活用型国土の機能拡充・補完関係に大きな期待が寄せられている。福井県、石川県、富山県に新潟県を加えた北陸地方4県を核とした環日本海防災拠点構想を立ち上げ、日本全体の防災戦略への貢献と、地域の安全安心な国土の実現を目指すことを目標にかかげるべき</li> </ul>	<p>→2. 北陸圏の課題(6)において、太平洋側の広域的な災害リスクについて記載済み</p> <p>→目標1(3)において、災害時の応援体制と応急復旧体制の整備について記載済み</p>
	農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業への企業参入や耕作放棄地の状況などのデータがあれば良い。</li> </ul>	<p>→2. 北陸の課題(5)において、耕作放棄地の推移や、農業生産等を行う組織経営体の推移などを記載済み</p>
戦略目標 ② 競争力のある産業の育成	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元大字の字部充実</li> <li>企業情報の発信・・・自治体による地元企業の広報支援を展開する。 大手企業についてはリクルート等に関する広報手段を多く持っているが、中小企業については、自社での広報手段に限られておる。現状若者、保護者には、企業情報がいきわたっていない(現に県のアンケートによる中では、保護者より県内の企業情報がもっと知りたいと意見があるよう。)</li> <li>関西、関東等、県外大学への企業情報発信・・・企業情報の一括配信</li> </ul>	<p>→目標2(1)において北陸固有の人材育成の取組方向については記載済み</p>
	産業全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井のものづくりについては、「繊維と眼鏡産業」だけでなく、全国に通用している産業は他にもある。</li> </ul>	<p>→北陸圏の地域的な特徴において、北陸圏のシェアトップ企業を整理済み</p> <p><b>2</b> →1. 北陸の現状において、「シェアトップ企業群」を追記</p>